聖書日課『からし種』2023.10.8－10.15

10月8日 （日） ヨブ記 5章	**「神は貧しい人を剣の刃から／権力者の手から救い出してくださる。だからこそ、弱い人にも希望がある」（15、16節）。**エリファズは正しい。神の正しい裁きは、貧しい人、弱い人の救いであり希望である。ただ「そうではない現実」が広がる世界のどこに神はおられるのか、というヨブの問いに対する答えとして、主イエスが十字架の死を死なれたことを覚えたい。
9日 （月） ヨブ記 6章	**「絶望している者にこそ／友は忠実であるべきだ。さもないと／全能者への畏敬を失わせることになる」（14節）。**ヨブは絶望しながらも、その心の中には神への畏敬が残っていた。そして心からの畏敬をもって神を賛美したいと願っていた。だからこそ苦しみ、神に向かって叫んだのだ。今日、わたしが共に歩むように神に招かれているのは誰の傍らだろうか。
10日 （火） ヨブ記 7章	**「人間とは何なのか。なぜあなたはこれを大いなるものとし／これに心を向けられるのか」（17節）。**詩編8編は同じ言葉を語りながら神を賛美した。それに対し、ヨブは同じ言葉で人として生きる苦悩を語った。人が生きる現実は苦悩と賛美が常に交錯している現場なのだろう。その私たちに賛美を与え、希望に向かう力を与えてくださった主イエスを覚えたい。
11日 （水） ヨブ記 8章	**「水があれば葦は太陽にも負けず…根を石にまつらわせ／その石と石の奥にまで入り込み…葦は、生き生きと道を探り／ほかの土から芽を出す」（16－19節）。**葦のしぶとい生命力を語りつつ、「ヨブが潔癖で正しいなら」神は必ず顧みて生かしてくださるとビルダドは語った。しかしヨブが友人たちに求めたのは「正しい知恵の説諭」ではなく「共感と共怒」だった。

メール配信登録メール　senfkorn.obc@gmail.com　**大井バプテスト教会**

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課『からし種』2023.10.8－10.15

12日 （木） ヨブ記 9章	**「神は北斗やオリオンを／すばるや、南の星座を造られた。神は計り難く大きな業を／数知れぬ不思議な業を成し遂げられる」（9－10節）。**ヨブは神の素晴らしい創造の御業を知っていた。しかし神の正しさを考えれば考えるほど、自分の正しさが神に無視されている失望と落胆が大きくなったのである。今日も世界にヨブと同じような叫びがあることを覚えたい。
13日 （金） ヨブ記 10章	**「なぜわたしをとがめ立てし／過ちを追及なさるのですか／わたしが背く者ではないと知りながら」（6－7節）。**ヨブ記の冒頭では「信仰の優等生」だったヨブが「神のことが分からない」「納得できない」と、その苦悩を吐き出していく。ヨブは「不信仰」なのではない。「神を信じたい信仰者」の代表としてストレートに神に問うている。ヨブの勇気ある問いを覚えたい。
14日 （土） ヨブ記 11章	**「もし、あなたも正しい方向に思いをはせ／神に向かって手を伸べるなら」（13節）、「人生は真昼より明るくなる。暗かったが、朝のようになるだろう」（17節）。**三人の友人たちは共通してヨブに「悔い改め」を求め、「正しい信仰をもてば救われる」と説得を試みた。それに対し「正しくない者の上にも太陽を上らせる神の愛」を教えてくださった主イエスに感謝。
15日 （日） ヨブ記 12章	**「あなたたち同様、わたしにも心があり／あなたたちに劣ってはいない」（3節）。**ヨブにも心がある。それは他の誰もと同様に保たれていた。サタンはヨブの財産と家族、そして骨と肉の休息を奪ったが、「心」にまでは手を出していなかったことになる。その心を今、ヨブの友人たちが励ますつもりで逆に揺るがしているとは。人を言葉で励ます難しさを知らされる。

大井バプテスト教会